

編集委員会の責任で一部変更したり追加したものがあ

(例) 第四卷第一章の四「家庭の和楽」(原題) ↓「念仏中心の家庭」(本選集)

六、「注」については、難解な用語の右に番号で印をつけ、該当ページ近くに付けた。これについては、岩波書店発行の『広辞苑』(第六版)等を参考にし、編集委員会の責任で著した。

七、各巻の最後に、その巻の収録文章の「住岡夜晃著作出典一覧」を付けた。

八、住岡夜晃の生涯を紹介する「略年譜」については、第五卷『仏法ひろまれ』の末尾に付けてある。

以上

第一章 一筋の道

強いとは、念仏一道を歩みきることである。

「念願は人格を決定す 継続は力なり」

一 唯一人の人を

世の多くの人は、青年に宗教を、如何にしたら青年が宗教をと、青年を宗教に入れるのに苦心されるようである。しかるに私は決してことさら青年をと言ったことがない。私は如何なる老人でもかまわない。老婆でもいいし、青年でもよいし、壮年でもいい。実際において、本部の講習には、小は十四、五から、大は七、八十の人まで雑然として一緒である。目に一丁字のない人もいれば大学や、専門学校の教育を受けた人もいる。あらゆる種類の人を網羅している。私にとつては、今までみ法を聞いたこともない若い人だけの時はかえって難しい。だから私は決して「若い人」と言わない。しかるにそうすればするほど若い人が多く集まつて来るようである。世の中は妙なものである。

私の講説は、難しいと言われる。確かに、私はここ数年御聖教の講義より外に語ったことがない。そして私は、どんなに初歩の人が混じつていようが、文字を知らぬ老人がいようが、話を安易に下げない。あらゆる種類の人がいても、同一の話をしてゆく。

皆にわかる話をしようとするよりも、一句に三日かかろうが四日かかろうが、私の心が満足